

大飯発電所1号機プラント排気筒ガスモニタの 一時的な僅かな指示値の上昇について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

大飯発電所1号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力117.5万kW）は第23回定期検査中のところ、本日、プラント排気筒ガスモニタの指示値が、10時10分から20分の約10分間、僅かに上昇（通常値約14.5cps→最大約18.1cps）していることが確認された。

直ちに、放出にかかわる運転操作や定期検査作業等を調査したところ、原子炉補助建屋内の空気を吸引して測定している放射線モニタ（仮設）が同時刻に上昇していることが確認された。

なお、先週の10月12日10時10分から20分の約10分間、今回と同様にプラント排気筒ガスモニタの指示値が僅かに上昇（通常値約14.5cps→最大値約18.1cps）しており、その際の調査では電氣的なノイズ信号の可能性が高いと推測されていたが、継続的に調査を行っていた。

これまでの調査で、1号機側において、放射性気体廃棄物の放出にかかわる運転操作の実績はなく、また、定期検査作業においても排気筒ガスモニタが上昇するような作業の実績はなかった。

さらに調査を続けているが、モニタの指示値が上昇する同じ時間帯で、現在運転中である2号機の化学体積制御タンクの気相部の水素ガスを処理している気体廃棄物処理系統のガス分析装置の自動校正が行われていることが判明した。この作業との因果関係等について、今後、詳細に調査を進めていく。

今回1号機排気筒から放出された放射性気体廃棄物の量を評価した結果、12日および19日の上昇分合計で、約 1.0×10^9 ベクレル（12日：約 4.9×10^8 ベクレル、19日：約 5.5×10^8 ベクレル）と評価されたが、この放出放射エネルギーは、保安規定に基づく大飯発電所の希ガスの放出管理目標値（ 3.9×10^{15} ベクレル/年）に比べ十分低く、周辺環境等への影響はない。

また、大飯発電所周辺に設置している環境放射線監視用モニタリングポストの指示値にも有意な変化は認められない。

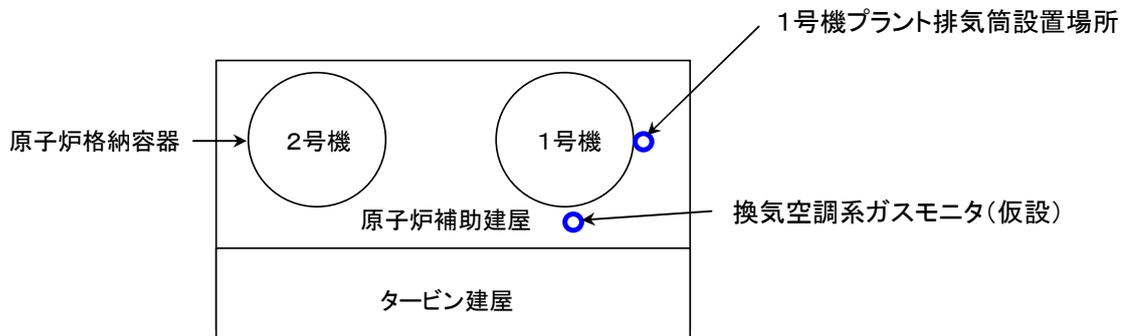
※1 体積制御タンク：化学体積制御系の設備で、原子炉容器や配管内の一次冷却材の量を調整するためのタンク。

※2 大飯1号機の放射性気体廃棄物（希ガス）年度放出実績では、平成18年度は 2.6×10^9 ベクレル、平成19年度は 1.6×10^9 ベクレル、平成20年度は 7.2×10^8 ベクレルである。

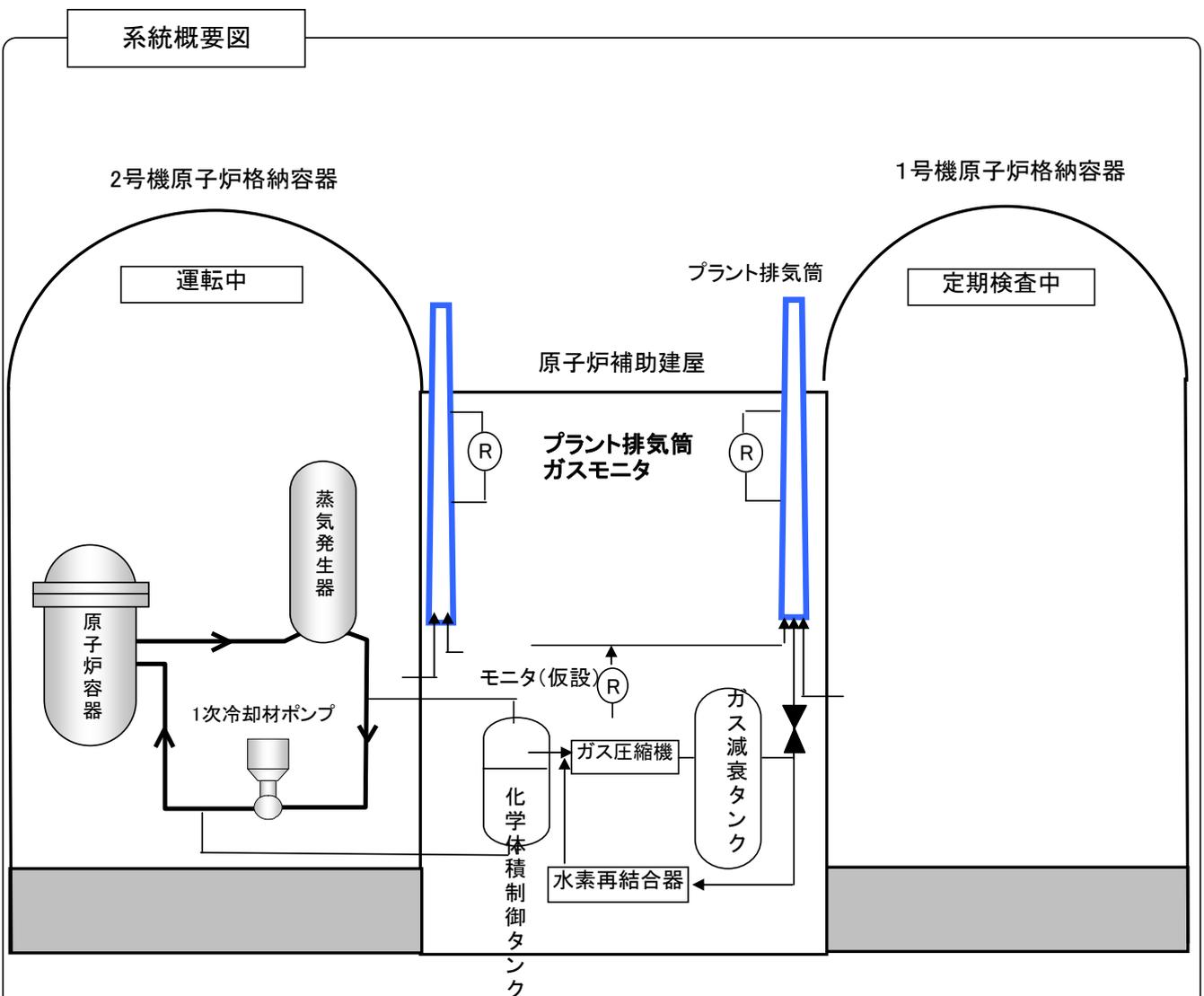
問い合わせ先(担当：吉田)
内線2354・直通0776(20)0314

大飯発電所1号機 プラント排気筒ガスモニタの一時的な僅かな指示値の上昇について

発生場所



系統概要図



【cps (counts per second)】
放射線測定器において1秒間に測った放射線の数を表す単位。